

派遣先所属 岩手県保健福祉部医療政策課

氏 名 伊東 弘雄 (いとう ひろお)

派遣期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の医療政策室では、主に被災地の医療確保・復興支援事業や県内医療機関の防火体制整備、医療相談を担当しています。具体的には、被災地の仮設診療所が恒久施設に新築移転する際の新たな建物や医療機器等に対する補助金事務や、県内医療機関が施設の防火体制整備のためにスプリンクラー等の設備を整備する際の補助金事務、保健所や県民医療相談センター等に寄せられる医療相談への対応などです。



【仮設診療所（釜石市内）】



【民間医療機関建設予定地の区画整理事業】

## 2 被災地の復旧・復興の状況

すでに震災から7年8か月が過ぎ、被害が甚大だった沿岸地域では、至る所で、新堤防の設置工事や土地の嵩（かさ）上げ工事等が行われています。鉄道や道路の整備も進んでいます。

来年のラグビーワールドカップでは、埼玉県では『熊谷ラグビー場』が会場の1つになっていますが、岩手県でも釜石市の『釜石鶴住居（うのすまい）復興スタジアム』で2試合が予定されています。

医療機関に関しては、震災後に仮設診療所で診療を続けてきた医療機関の新しく建設する恒久施設への移転が進み、来年度中には、予定されている計画が完了することが見込まれています。



【大規模かさ上げ工事（陸前高田市）】

### 3 被災地に派遣となって感じたこと

沿岸地域以外のところでは、私が日常生活を送っている盛岡市内も含めて、震災のことは見たり聴いたりする機会も少なくなりつつあります。

被災地から遠く離れた都道府県にお住いの方々には、なおさらかもしれません。

ただし、岩手県内人口の減少は止まらず、様々な分野での人材不足が危惧されています。被災地でもその傾向は変わりません。大規模な国際イベントが終了し、大規模な公共工事が徐々に完了していくと、その時に被災地では、新たな就業機会の確保や新たな住民を呼び込める環境整備、観光客の継続的な誘致等々、課題が山積しているのではと危惧されます。

歴史、文化、伝統に溢れた岩手県。その中でも、特に三陸の被災地は、さらに山の幸と海の幸とで年間を通して食に大変恵まれています。一人でも多くの方々に、観光客として、春夏秋冬、被災地を何度も訪れていただくことが、一番の継続してできる震災復興支援になると思います。

もちろん、就業場所として、学業の場所として訪れていただくことが可能であれば、さらなる震災復興支援になります。

誰もが、一つ一つ、こつこつと、自分のできることで、東日本大震災の被災地での復興支援を！！



【田野畑村の海岸風景】



【石割桜（盛岡市内）】

（平成 30 年 10 月作成）